

# ワンヘルスについて

(FAVA大会を聴講して)

令和5年 1 2 月 1 1 4 日

白竜湖において

広島県獣医師会東広島支部

平野 政敏

# FAVA（アジア獣医師会連合）大会

- 令和4年11月11日（金）～13日（日）福岡県福岡市で開催
- （藏内勇夫氏は、日本獣医師会の会長でありながら、アジア獣医師会連合の会長）
- FAVAは、アジア・オセアニア地域における、獣医業の地位の向上の目的で、1978年に設立。  
（日本を含む23ヶ国・地域で組織、2年に1度大会を開催）
- テーマは、「人と動物の健康及び環境保全を促進するためには、医師や獣医師並びに環境の専門家が一体的に取り組む必要がある」  
（ワンヘルスの推進）
- 「FAVAワンヘルス福岡事務所」の開設

# ワンヘルスの歩み

- 平成5年（1993年）に開催された世界獣医師会世界大会で採択された「人と動物の共通感染症の防疫推進や人と動物の絆を確立するとともに平和な社会発展と環境保全」に努める。  
（ベルリン宣言）が端緒。
- 平成16年（2004年）ロックフェラー大学で開催された「ワンワールド・ワンヘルス」をテーマとするシンポジウム
- 平成24年（2012年）世界獣医師会と世界医師会が「ワンヘルス推進の覚書」を調印。
- 平成28年（2016年）北九州「第2回世界獣医師会・世界医師会“One Health”に関する国際会議」が開催。  
医師と獣医師が協力関係を強化。  
（福岡宣言）が採択。
- 令和4年（2022年）「アジアからのワンヘルスアプローチ」をテーマとして第21回アジア獣医師会連合（FAVA）大会」が開催。  
「アジアワンヘルス福岡宣言2022」が採択。

# FAVA大会（博多：ヒルトンホテル）



# ワンヘルスとは？



人と動物の健康と環境の健全性は、生態系の中で相互に密接につながり、強く影響しあっている。

これらの健全な状態を一体的に守らなければならない、これが「ワンヘルス」の理念です。

# 今なぜ、ワンヘルスが必要か？

- プラネタリークライシス

地球規模での、環境危機を説明するために、国連システムにより、採用されたシステム。

- 環境破壊（汚染）、気候危機（気候変動）、生物多様性の喪失（生態学的な危機）3つの危機は、相互に関連し、環境リスクと世界的な経済損失を増大させる。

- COVID-19（コロナ）のパンデミックも一因。

# 感染症を取り巻く状況の変化

- 人口の増加（アジアを中心に増加）
- 集団的な生活機会の増加（田舎から都市部へ）
- 食習慣、性習慣などの急速な変化（西洋化、梅毒の流行）
- 自然環境の破壊（森林の伐採、森林火災）
- 人の住居地の拡大による人と動物の距離の接近  
（感染する機会が増える）
- 交通機関の発達による人と物の大量・短時間での移動  
（感染症の流行）

# 人・動物・生態系の健全性

- 2020年11月

それまで 「ワンヘルス」を推進してきた、WHO（世界保健機関）、FAO（国連食糧農業機関）、OIE（国際獣疫事務局）に、新たにUNEP（国連環境計画）が参加。

- 従来の3機関では対応できていなかった、「環境」生態系の健康をを守る視点が強化された。

# ワンヘルスの構成

- 6項目からなっている

1. 人と動物の共通感染症対策

手洗い、咳エチケット、口腔ケアによる感染症予防、ペットの衛生管理、予防接種、ダニ対策

2. 薬剤耐性菌対策

用法用量を守った薬の服用、薬を飲み切る、あげない、のこさない

3. 環境保護

自家用車の使用を控える、排気ガスの削減、節電・省エネに取り組む、ゴミのポイ捨て禁止

4. 人と動物の共生社会づくり

ペットの予防接種や健康診断、マイクロチップの活用、野生動物への餌付け禁止

5. 健康づくり

ハイキング等で自然との触れ合い、森林浴、動物園・水族館に出かける

6. 環境と人と動物のより良い関係づくり

東広島産の食べ物を積極的に食べる、食品のロスの削減

# ワンヘルスの概念

- 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）  
世界の感染者数 1 億人に近づく  
犠牲者 8 0 0 万人を超える
- 新型コロナウイルスに続く、次の第二、第三のパンデミックスを防ぐには、キーワードとして、「ワンヘルス」という考えです。

# 気候難民

- アフリカ

ケニア

温暖化➡沸騰化

雨が降らず、砂漠化で、農業ができない。生活できない。

家畜の餓死、奪い合い、争い。

セネガル➡カナリア諸島（気候難民として、3000人/1日）

若者は、ヨーロッパに行く。

雨が降らない。農業ができない。生活できない。

砂漠化

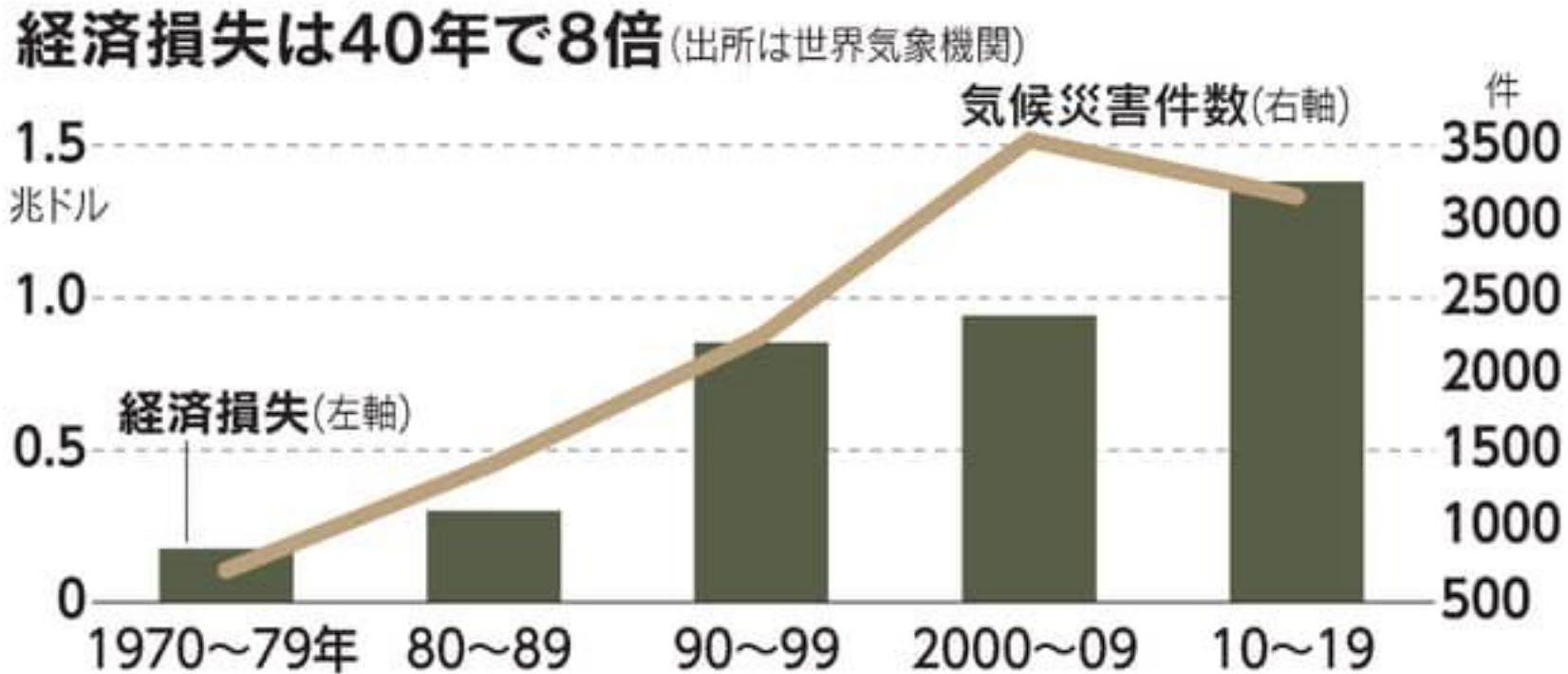
（法的な枠組みもなく、安全で合法的な受け入れ方法がない）

- 国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）

3, 200万人

2050年には、2億1000万人（推察）

# 気候変動による経済的損失





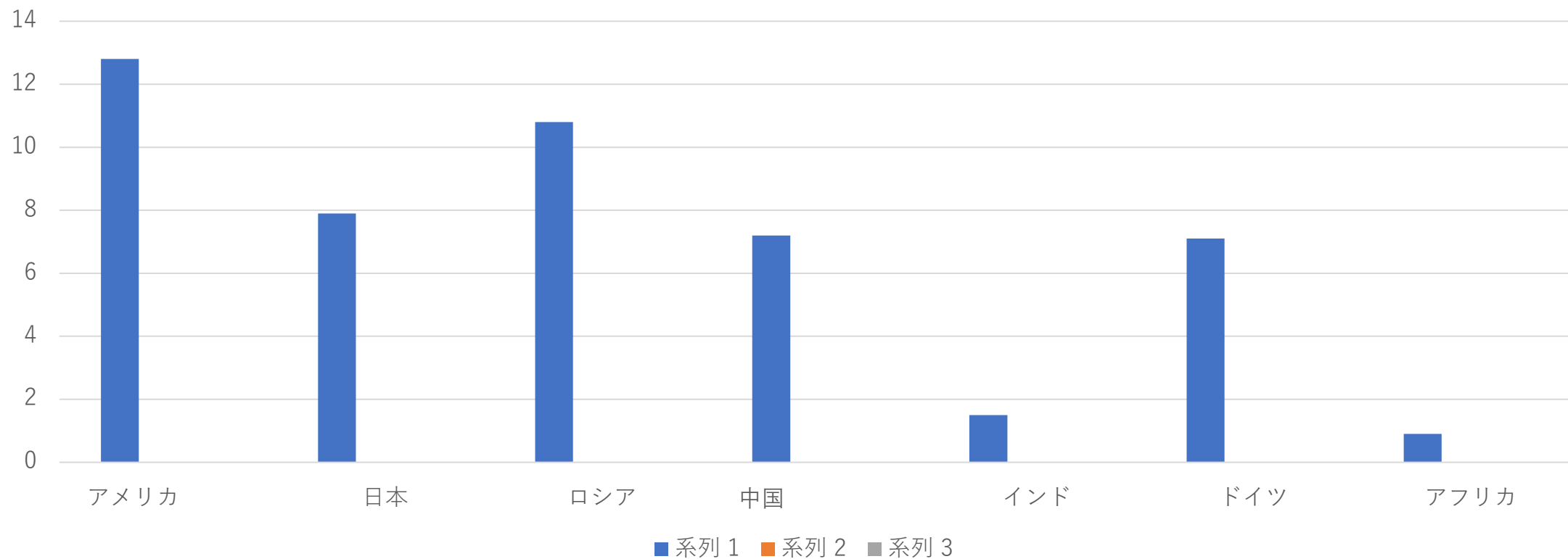


# 気候難民



# 一人当たりのCO<sub>2</sub>排出量（単位：トン）

グラフ タイトル



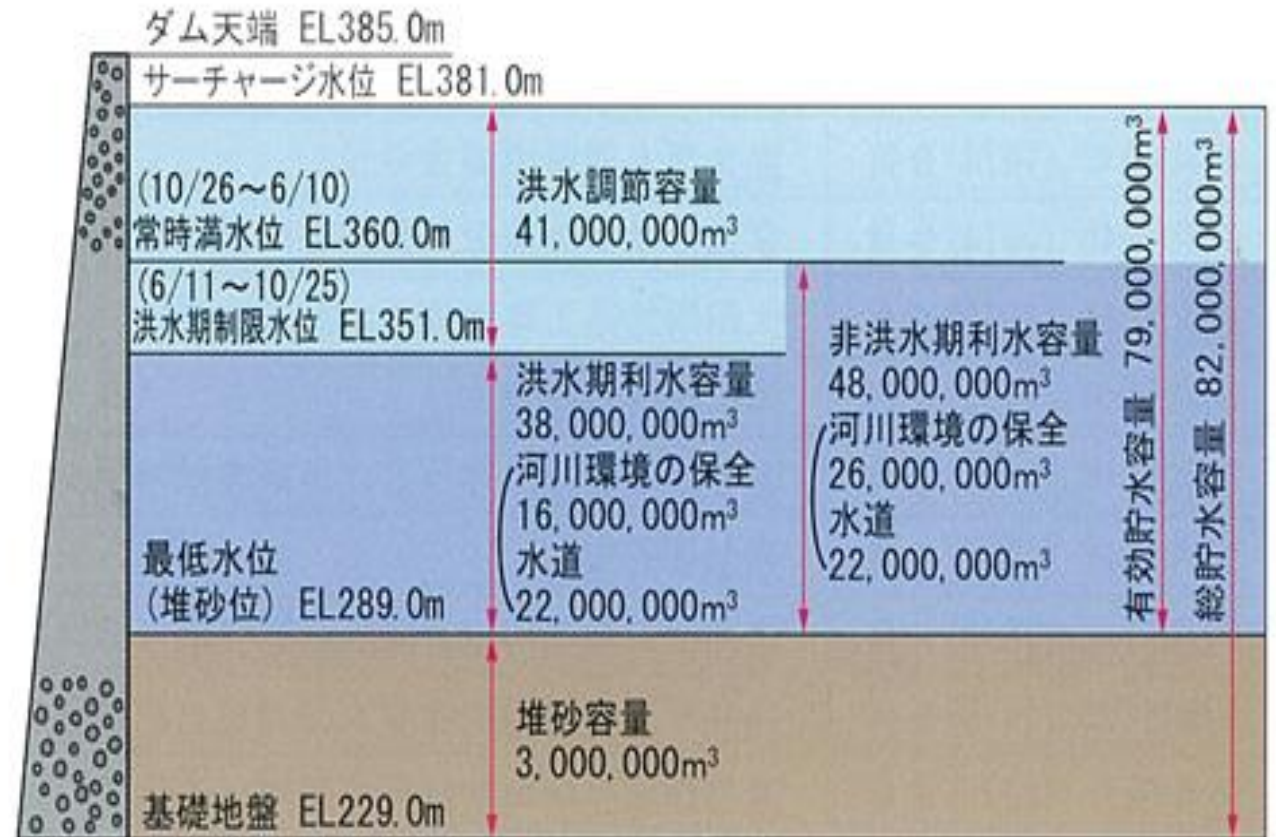
# 広島県

- 温井ダム

広島市、東広島市、呉、  
四国の一部に水を供給。  
水位が、40%減。

このまま続くと、節水  
の協力要請。

- 灰塚ダム



# 地球の大気

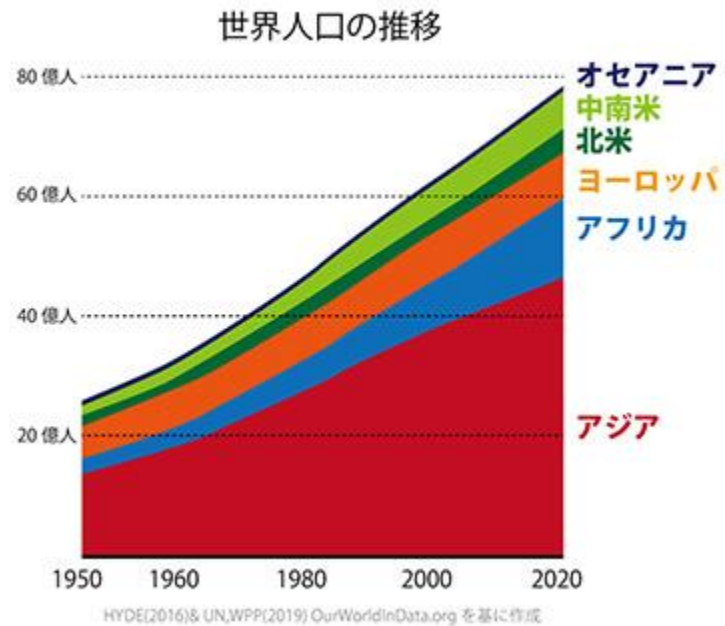
- 世界の平均気温             $+ 1.1^{\circ}\text{C} \sim + 1.5^{\circ}\text{C}$  上昇
- 2100年までに、         $+ 5.7^{\circ}\text{C}$  上昇
- 生物多様性危機        1970年をベースに、         $- 69\%$   
  
魚は、  $- 83\%$

# 薬剤耐性

- アジアを中心に、発生リスクの増大

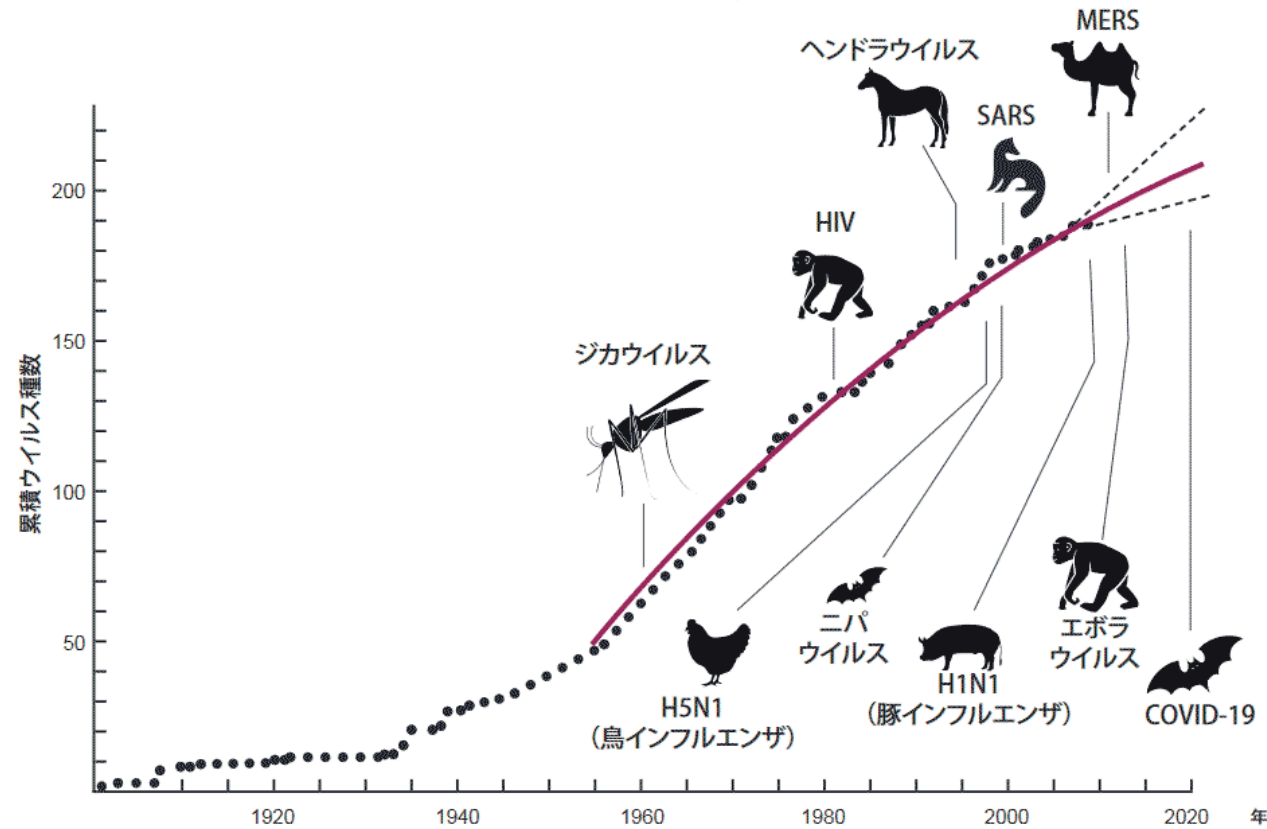
セファロスポリン耐性菌の増大

# 世界の人口推移と人と物の移動



# 人への感染が確認されているウイルスの累積発見数

人への感染が確認されているウイルスの累積発見数



# この20年間で話題となった感染症

- 高病原性鳥インフルエンザA/H5N1
- ニパウイルス
- ウエストナイル熱
- 重症急性呼吸器症候群（SARS）
- 新型インフルエンザ2009
- 重症急性熱性血小板減少症候群（SFTS）
- 中東呼吸器症候群（MERS）
- 低病原性鳥インフルエンザA/HNのヒトの感染
- ポリオ
- エボラ（西アフリカ）
- ジカウイルス感染症
- ペスト（マダガスカル、DRコンゴ、ペルー）
- エボラ（コンゴ）
- COVID 19
- MPOX（サル痘）
- 小児急性肝炎

# サル痘



# 感染症の予防の基本

- 感染源、感染経路、感受性者対策
- 個人の対策として、日常の衛生対策、予防接種
- 社会全体として、社会環境の整備、感染症発生時の拡大防止、予防接種  
(個人の予防が社会全体の予防になり、社会全体の予防が個人の予防に結び付く)
- 国内外の感染症に関する情報を収集・分析し、その情報を還元・発信する感染症のサーベイランスは感染症対策の基本情報である。
- 個人情報に配慮しながら、情報を共有する。

# コウモリと生態系

- コウモリは、いろいろなウイルスを持っている。
- 感染症の観点からは、**人との距離を保つことが大切で、彼らの住処である森林を破壊してはいけない。**（森林を保全し、棲み分けが重要）
- 植物の繁殖（受粉）に役立っている。
- 昆虫類（蛾等）を食べ、農業に貢献している。

# 感染症の原因とされるコウモリ



# コウモリ

- 鳥でもなく獣でもない、哺乳類。
- その種類は、1, 0 0 0種。
- 北極、南極、高山以外は、いたるところに生息。
- エボラウイルスの中間宿主。狂犬病ウイルス等。
- 広範囲に飛翔することで、ウイルス・菌をまき散らしている。（糞）
- 日本では、鳥獣保護法の対象になっている。かってに殺傷・捕獲することは、禁止されています。

# ワンヘルスに期待される効果（推察）

- この度のコロナウイルスでは、【世界の経済の損失について、IMF（国際通貨基金）がパンデミック前の予測と比較した生産高の累積損失を「2020～2021年の合計で11兆ドル（約1,180兆円）」と予測している】
- 世界保健機関（WHO）の東南アジアの地域顧問を務める、ギヤネンドラ・ゴンガル博士は、「ワンヘルス」アプローチを適用すれば、パンデミックの予防に係るコストは、被害総額の2%に過ぎない。  
10年間で2,660億ドル（27兆5,000億円）を投じれば、次のパンデミックを軽減できる。

# 予防対策の支出は？

- 早期警告及び監視システムへの技術的な対応
- 適切な資金提供
- 法律の施行
- 「ワンヘルス」を実現する政策提言などの取り組みに割り当てられている。

# 根本治療のカギとなる「ワンヘルス」

- 「対症療法」から「根本療法」へ
- 発生原因となる自然環境（生態系）の健康、
- 病原体を保有・運ぶ家畜や野生動物の健康
- 人の健康

この3つを健全なものにしなければ、動物由来感染症は予防できない。

- 国際協力関係を構築（壁を越えた協力ができるか）が、キーポイント（各国、各省庁、医療や環境、動物の専門家、企業や教育、市民、民間団体の関係者等）

# ワンヘルスの構成

- 6項目からなっている

人と動物の共通感染症対策

薬剤耐性菌対策

環境保護

人と動物の共生社会づくり

健康づくり

環境と人と動物のより良い関係づくり

# ワンヘルスの構成

- 6項目からなっている

人と動物の共通感染症対策

手洗い、咳エチケット、口腔ケアによる感染症予防、ペットの衛生管理、予防接種、ダニ対策

薬剤耐性菌対策

用法用量を守った薬の服用、薬を飲み切る、あげない、のこさない

環境保護

自家用車の使用を控える、排気ガスの削減、節電・省エネに取り組む、ゴミのポイ捨て禁止

人と動物の共生社会づくり

ペットの予防接種や健康診断、マイクロチップの活用、野生動物への餌付け禁止

健康づくり

ハイキング等で自然との触れ合い、森林浴、動物園・水族館に出かける

環境と人と動物のより良い関係づくり

東広島産の食べ物を積極的に食べる、食品のロスの削減

# 今後の取り組み（考え方・方向性）

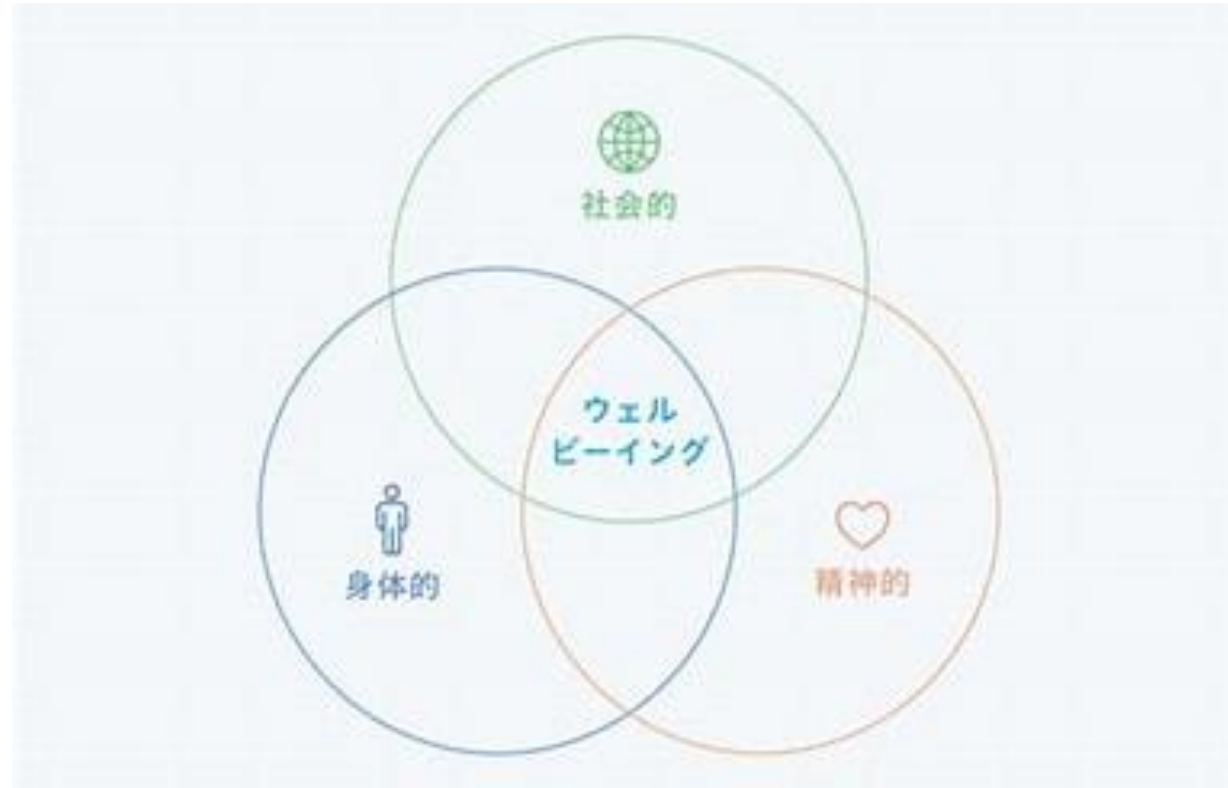
- ウェルビーイング

身体的・精神的・社会的にも良好な状態（広い概念）

人だけでなく、動植物、コミュニティ、地球にとってのウェルビーイングととらえることにより、ワンヘルスとの協調性が強くなります。

- 人の健康は、動植物・環境と深く結びついている
- 生命全体の健康と幸福
- 社会、経済、環境の持続可能な発展に寄与
- ワンヘルスとウェルビーイングは密接に関連している。

# ウェルビーイング



# 直近でのワンヘルスに係る動向

- 昨年11月に福岡で開催した第21回アジア獣医師会連合（FAVA）大会「アジアワンヘルス福岡宣言2022」を採択。
- 本年4月台湾で開催された世界獣医師大会（WVAC）において、FAVA・日本獣医師会 会長 藏内 勇夫氏が、「WVA会長からワンヘルス特別賞」を受賞
- 本年5月「G7広島サミットの首脳宣言」ワンヘルス適用アプローチが表明。
- 日本政府6月に閣議決定「経済財政運営と改革の基本方針（骨太方針）」にもワンヘルスアプローチを盛り込む。
- 令和5年8月 FAVAワンヘルス福岡オフィス（FOF）の開設
- 令和5年11月に「ワンヘルス施策の推進」に関する要請

# FAVAワンヘルス福岡オフィス



# 「ワンヘルス」実践体制の強化

- 農研機構動物衛生研究部門の法的な調査研究体制の確立  
愛玩動物・野生動物の調査・研究も。  
感染症の発生予察、発生予防、早期診断、まん延防止  
診断薬・ワクチン等の開発、輸出入検疫の強化
- 国立感染症研究所の体制・機能強化  
日本版CDCの創設  
農研機構動物衛生研究部門との連携強化  
越境性感染症の侵入防止  
薬剤耐性菌対策

# 福岡県ワンヘルス関連条例

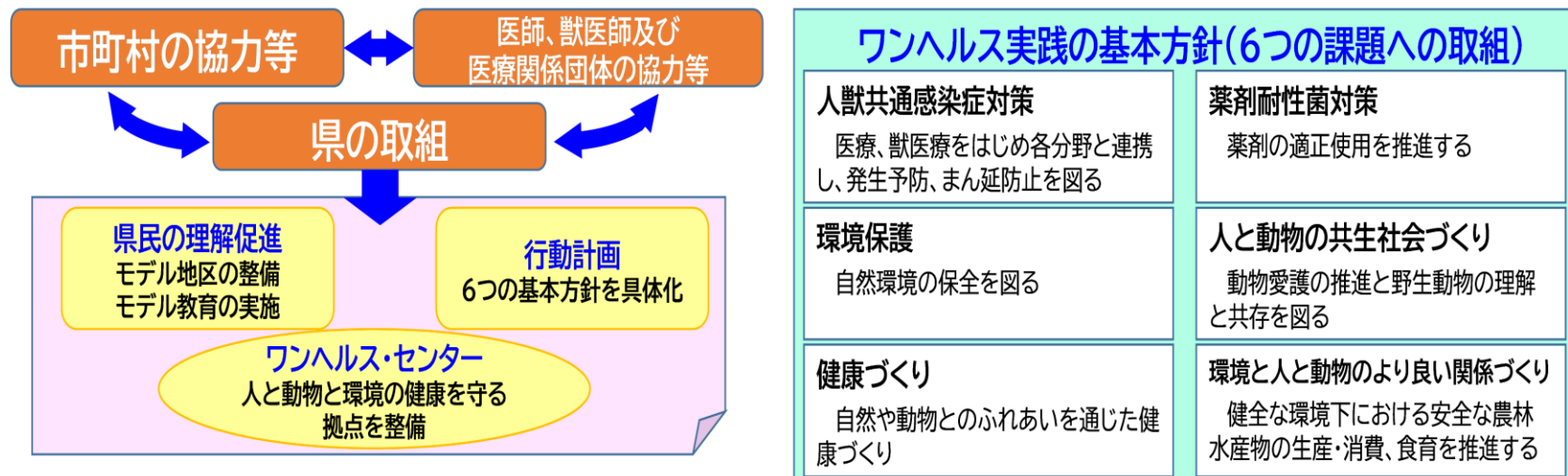
全国初

〈福岡県ワンヘルス推進基本条例〉R3.1.15公布・施行

ワンヘルスの理念に基づく行動又は活動を推進し、ワンヘルスの理念の実践に関する課題に取り組むための基本理念、基本方針及びその基盤となる措置等に関し必要な事項を定めたもの

〈ワンヘルスの実践促進に関する条例〉R4.10.28公布・施行

「ワンヘルス」の取組の実効性を確保するため、県や市町村、事業者、県民が担うべき責務などを定めたもの



# 「ワンヘルス」の先進県（福岡県）

- なぜ先進県なのか？
  - 政治力が集結している（わたくし個人の推察）
    - 麻生国会議員
    - 日本獣医師会の会長・FAVAの会長（藏内勇夫）
    - 元日本医師会の会長（横倉義武）
    - 福岡県知事
- 現在、ワンヘルス・総合推進室を設置（電話で聞きましたところ）
  - 考え方を広めている（動物病院・獣医師）
  - 環境・人・動物の調査研究
- ハード面は、令和9年度に向けて
  - 県の予算では、基本構想・設計
  - 施設（ワンヘルス・センター）は、国の予算（50億）

# 第2回世界獣医師会・世界医師会「ワンヘルス」に関する国際会議（平成28年11月11日） 福岡宣言



左から藏内日本獣医師会長、チャンWVA次期会長、  
ドォーWMA元会長、横倉会長



# 様々なリスク要因



# 木の伐採



# 森林火災（世界のどこかで火災が発生）

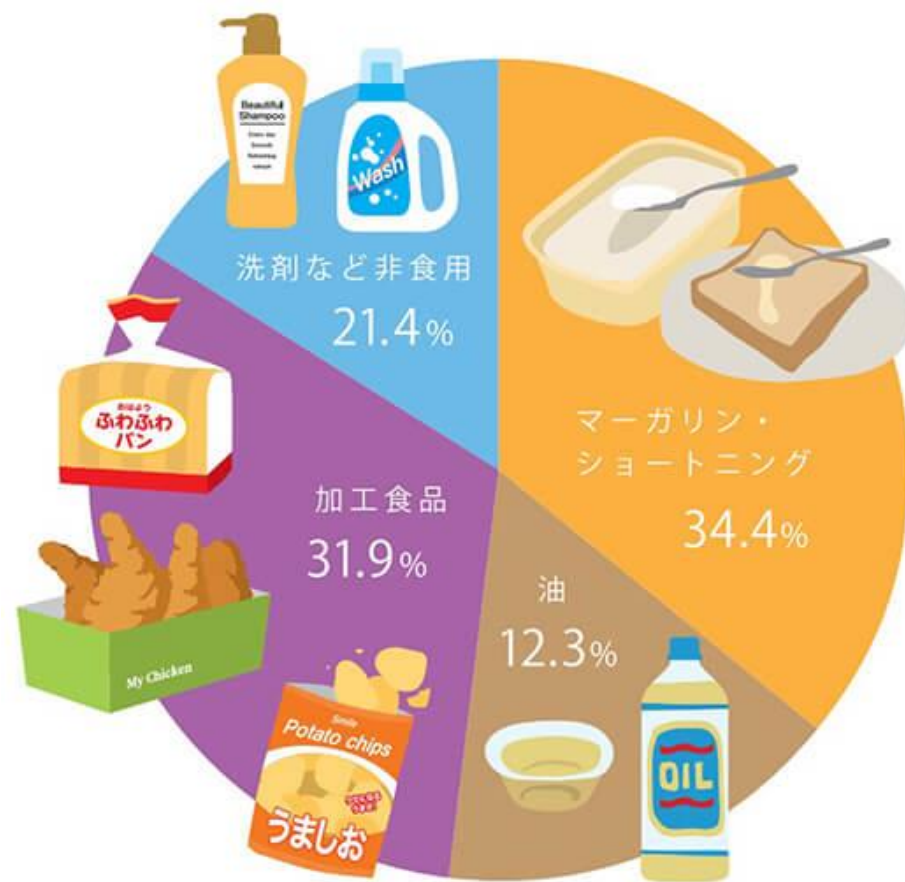


一つの事例として  
例えばパーム油（アブラヤシから生産）

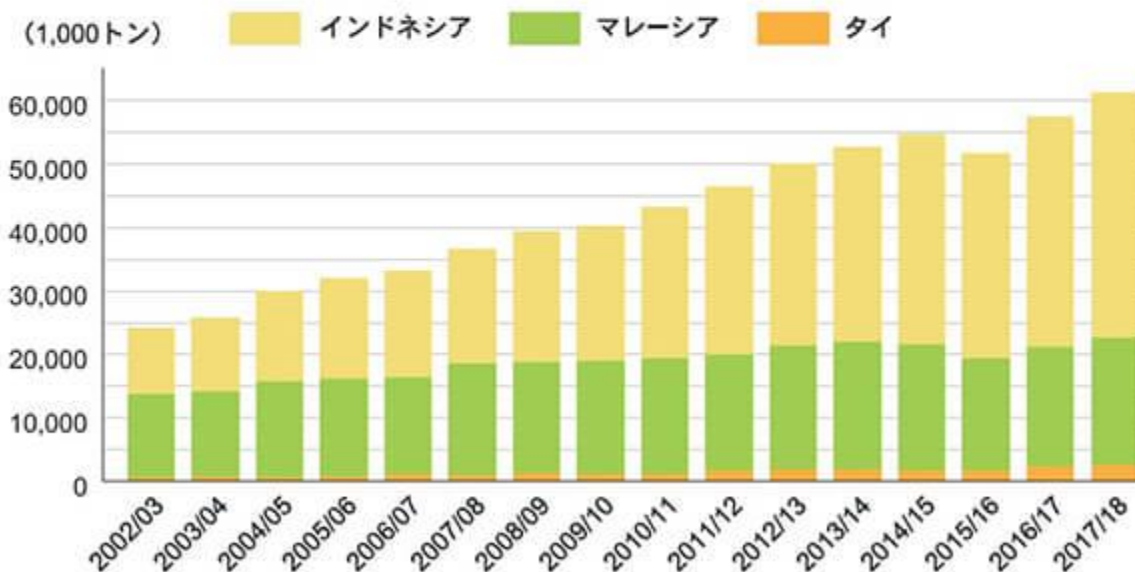
私も使っているの？ 日本でも、誰もが毎日使っている油です。



# パーム油



## 上昇を続けるパーム油の生産量



今後の予想  
2010年～2030年  
約 **3** 倍  
に増加



# アブラヤシの実



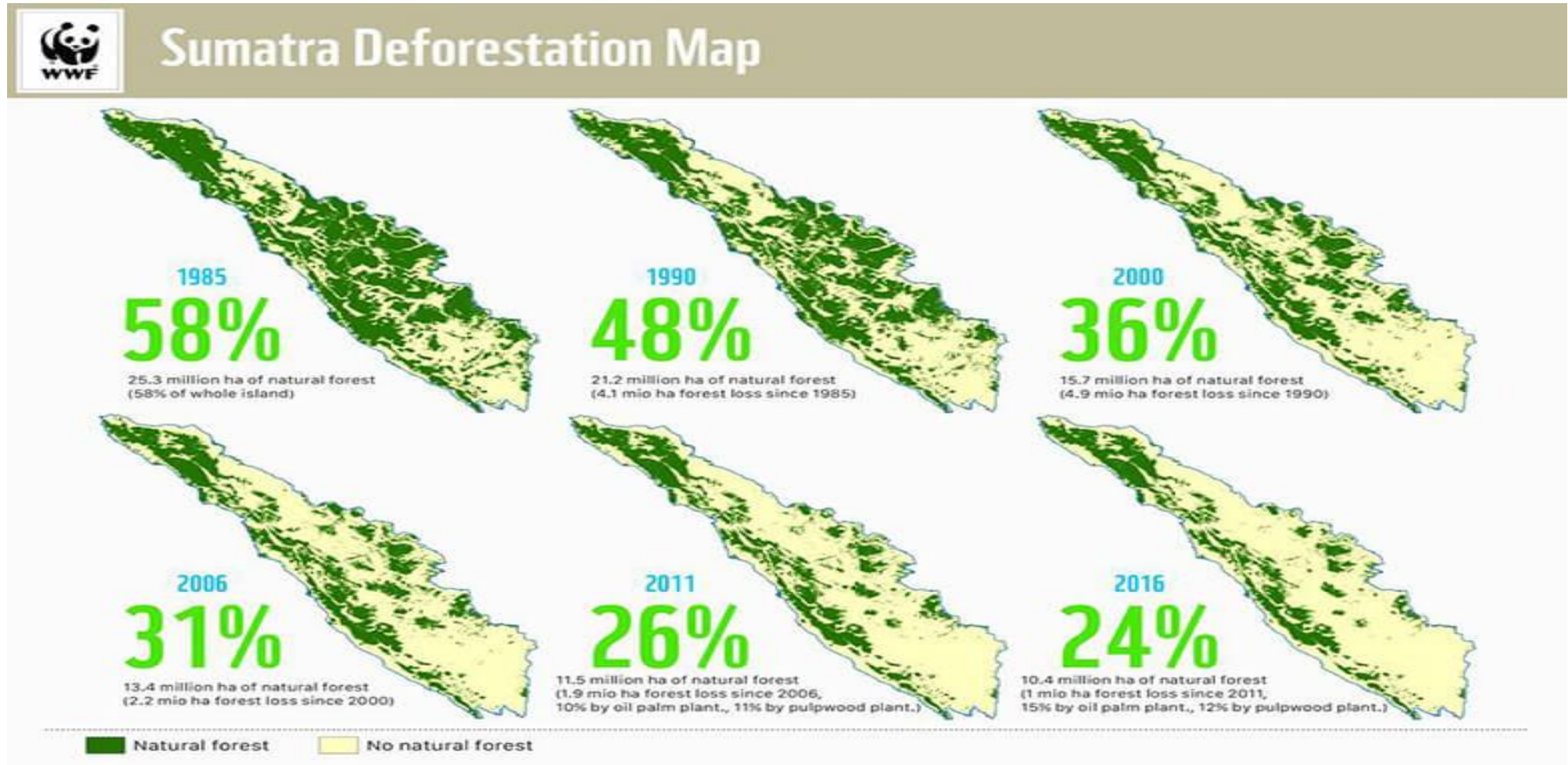
# 熱帶雨林



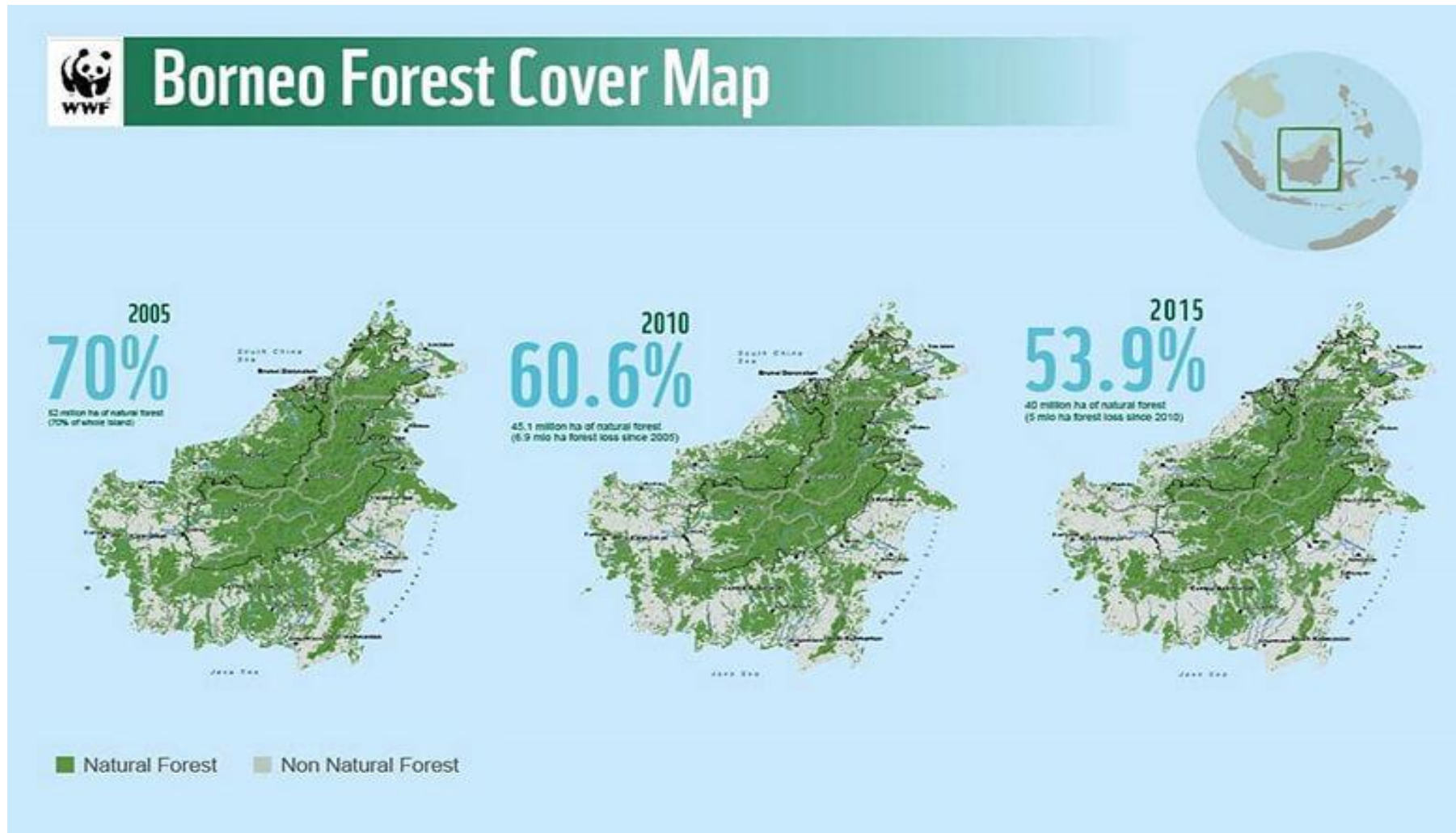
# アブラヤシのプランテーション



# 熱帯雨林の減少（スマトラ）



# 熱帯雨林（ボルネオ）



100%輸入、間接的に環境破壊につながっている。日本人にも責任がある。ライフスタイルを変えなければならない。

私も使っているの？ 日本でも、誰もが毎日使っている油です。



# 生産者が抱える問題（代替産業がない）



# 東広島支部のワンヘルスの取り組み

- FM東広島（ラジオ）での啓発・普及

まずは、広く市民に「ワンヘルス」とは、せめて言葉だけでも。

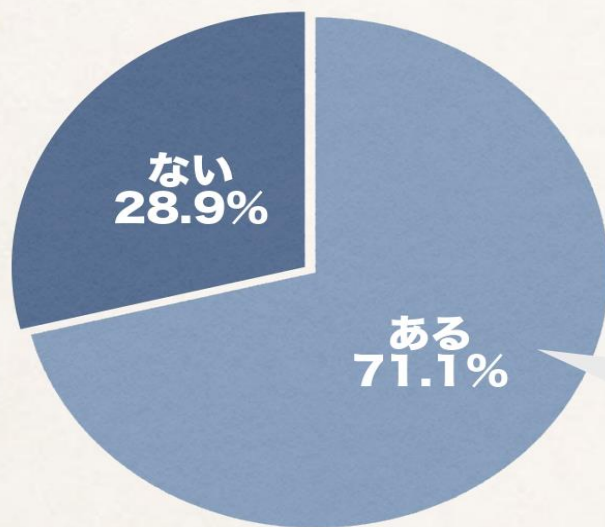
- 今後の取り組み  
動物病院・獣医師等による普及・啓発

# 「FM東広島」の放送内容（音源）

- 人の健康、動物の健康、そして環境をひとつのものとして守っていかうという考えを「ワンヘルス」といいます。動物にとって暮らしやすい環境を守ることが、人にとっても健康で安全に暮らす環境を作ることにつながります。東広島獣医師会からのお知らせでした。
- 私たちの生活は便利で快適になった一方、環境破壊などを起こしています。人と動物の健康、環境保全、これを一体的に守る「ワンヘルス」の取り組みが、これからの鍵となります。みんなで、安全に暮らせる環境づくりをしていきましょう。東広島獣医師会からのお知らせでした。

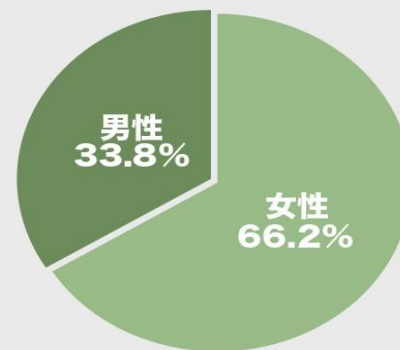
## 【参考】聴取者データ

FM東広島を聞いたことがありますか？

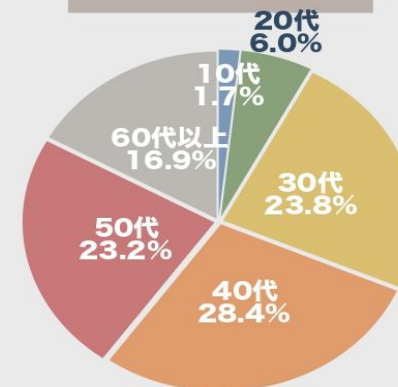


※調査はWEBサイト「東広島デジタル」でアンケートを実施。読者プレゼントの応募者が対象。有効回答数は349件。調査（募集）は2022年10月19日実施。

男女比率

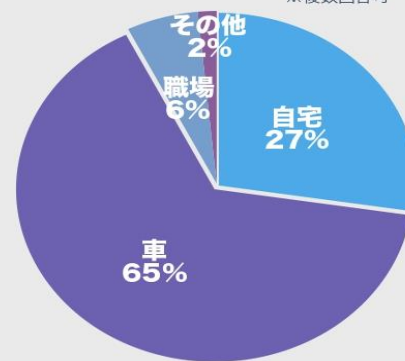


年代比率



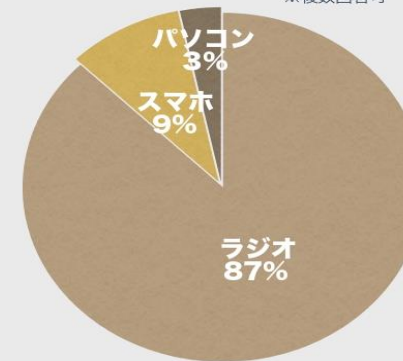
聴取場所

※複数回答可



聴取方法

※複数回答可



# 国としての、今後の取り組み

- 法整備・条例の制定（国が動かないのに、福岡県は出来ている）
- 国や地方自治体は、今回のコロナの次の、第2・第3の感染症を防ぐためにも、計画的・段階的に予算を投入すべきである。
- 政治（国会議員）・自治体（県知事、市長等）・議会の理解が不可欠である。
- 広く市民への啓発が必要であり、とりわけ小学生・中学生・高校生への働きかけが重要である。

# 日本獣医師会から自由民主党ワンヘルス推進議員連盟 会長 林 芳正 様への要請

- 危機管理及びワンヘルスに関する施策を講じられたい。
- 愛玩動物・野生動物での感染症等の調査研究。
- 動物保健衛生所「ワンヘルスセンター」の設置。
- 国・都道府県による支援。
- マイクロチップ登録事業の適正な運用。
- 高度・専門的な獣医医療の整備。
- 産業動物診療獣医師・公務員獣医師の処遇改善。

# 「ワンヘルス」実践体制の強化

- 農研機構動物衛生研究部門の法的な調査研究体制の確立  
愛玩動物・野生動物の調査・研究も。  
感染症の発生予察、発生予防、早期診断、まん延防止  
診断薬・ワクチン等の開発、輸出入検疫の強化
- 国立感染症研究所の体制・機能強化  
日本版CDCの創設  
農研機構動物衛生研究部門との連携強化  
越境性感染症の侵入防止  
薬剤耐性菌対策

# ワンヘルス対策の困難性

- 国同士の利害関係が絡み、ワンヘルスの実践が難しい状況である。
- 国際的な協力関係が不可欠である。（戦争・覇権争い）
- 結論としては、ワンヘルスへの道のりは、非常に困難である。

世界的な協力がカギ



# まとめ

- 「ワンヘルス」言うはやすし、行うはがたし。  
しかし、やらなければならない。

# 事務局のつぶやき

- ワンヘルスが実践されれば、核兵器のない、平和な社会が実現する。
- ワンヘルスの成功により、獣医師の社会的な地位、待遇が改善される。（今が、最後のチャンス）